令和５年度　朝来市立（　　東河小　　）学校　学校評価

学校教育目標

ふるさとを愛し、主体的に学び考え行動できる児童の育成

総合的な学校関係者評価

※文書表現で記入してください。

・達成状況の評価についてはおおむね妥当である。
・授業時数の制約があるなかで、青龍太鼓や収穫祭、また壱岐との交流事業などの取組ができていることは、良かった。ただ、働き方改革で長時間労働をなくすよう取組みが行われているが、まだ遅くまで仕事をされている様子を見ると解決するにはなかなか難しいのかとも感じている。今後の継続した取組みも必要である。

自己評価　　**達成状況（Ａ：達成している　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：あまり達成していない　Ｄ：達成していない）**

	評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 （評価項目ごとの学校関係者評価・意見等）
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	・学校だよりや学年通信だけでなく、ホームページにも各学年の児童の様子を掲載し、学校生活の様子を伝えるようにしている。さらに、急な連絡や予定変更については、主にさくら連絡網を使い、周知を図るようにしている。 ・地域からの大きな協力を得ながら、学校運営を行うことができた。今後も、地域とつながり、地域の思いや願いを共有することを大切にしたい。地域の方々とのつながりを大切にし、地域の方々にも参画していただきながら、より良い学校運営を進めていきたい。 ・学校だよりや学年通信などで情報を発信し、運動会なども地域と話し合いながら進めていくことができた。今後も学校運営協議会を中心として、育てたい児童像等について地域と思いを共有しながら、行事を行っていきたい。	・学校運営協議会として、これまでの地域の力を生かした実践をさらに進めていけるような取組について検討していきたい。 ・地域への情報発信（学校便り「せんだん」）や地域と協力して進めている取組については、評価できる。しかし、まだ地域とのつながりは少なく、さらに地域を巻き込んだ取組を考える必要がある。 ・「和顔愛語」で東河小学校がこれからも長く歴史を紡いでいけるように地域で支援をしていきたい。
		学校運営協議会活動の充実	B		
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・話し合い活動を通してお互いを認め合う集団づくりを行っている。 ・一人一人の児童の特性や個性に配慮した指導が行えるよう、全職員で児童の情報を共有している。さらに、児童の様子で気になるようなことがあれば、全職員で共通理解を図り、声かけ等を行いながら注意深く見守り支援している。 ・教員の資質向上を図るため、夏休みに外部講師を招き、児童の内面理解を図る指導の工夫について研修を行った。 ・生徒指導委員会を定期的に、ケース会議を適宜開催し、児童の困り感に寄り添い支援を行っている。今後も常に、ＰＤＣＡを意識し取り組んでいきたい。 ・課題発生時は、委員会を開催し、管理職を中心に情報共有を図り、今後の対策等を検討している。さらに、市教育委員会や関係機関とも情報交換・共有し合いながら、早急に対策を実施してきた。	・児童の変化を敏感にとらえ、教職員間で情報共有していくことが大切である。 ・日常的に困りごとを教師に相談できる関係づくりが必要である。人目があるところでは、なかなか相談しにくいこともあるので、例えば、連絡帳を活用してはどうだろうか。記録を残すという意味でも有効である。 ・保護者の考え方もさまざまであるからこそ、話し合いを重ね、それぞれの思いや願いをすり合わせ、共通の意識をもって、取り組んで行くことが大切である。 ・地域として、協力していけることを検討していきたい。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A		
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B		
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	・教職員の防犯訓練も実施でき、もしもの時の対応を確認することができた。今後も研修などを重ね、さらに危機管理意識を高めていきたい。 ・児童の安全意識を高めるため、防災・防犯教育を大切にしていきたい。 ・校舎の老朽化に伴い修繕箇所が増えている。また、雪の重みで校庭の木が倒れることもあった。安全点検の機会も大切にし、安全な環境づくりを行っていきたい。	・防災・防犯教育は、今年度訓練も実施しており、安心・安全への意識の高さを感じる。小さなことを積み重ね、日々努力を続けることが大切である。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	A		
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	・支援の必要な児童に適切に対応できるよう、個に応じた指導のあり方を研修等を通して学び、全職員で共通理解し進めている。 ・限られた職員ではあるが、授業中、児童に複数の指導者が関わることができる体制づくりを行った。さらに、支援の必要な児童への対応についても情報共有しながら対応することができた。 ・複数の指導者が関わる体制づくりにより、児童一人一人の個に応じた対応を行うことができ、児童が安心して主体的に学校生活を送ることができている。さらに、交流学級でも自信を持って学習活動を行うことができている。	・読み聞かせボランティアとして朝読書に関わっているが、今後さらに支援学級の児童にとっても有意義な時間となる取組を行っていきたい。 ・支援学級と交流学級の児童がお互いに触れ合う機会が多い方が良い。特別視しない環境づくりが大切である。
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	・感染拡大防止対策も緩和され、マスク着用も任意であるので、児童は感染予防について自ら考え、対策を行っている。児童が自ら判断・行動できるよう、今後も感染予防の大切さ・方法等について指導を行っていきたい。	・感染拡大予防のための対策は、十分に行われていた。
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A	・青龍太鼓や田植えから収穫祭までのもち米作り体験、生きもの調査など地域の方の多大な協力を得ながら、たくさんの体験学習を行うことができた。	・学校全体で、「特色ある学校づくり」の取組が十分に行われている。 ・東河地区協議会を要として、さらなる地域の協力者の発掘を行いたい。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのＵＤ化推進	B	・児童が興味関心を持続させ、主体的に学習に取り組む質の高い授業づくりに向け、日々工夫改善に取り組んでいる。 ・研修テーマを「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」とし、「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業づくりに向け、一年間を通し研修を重ねてきた。また、「授業づくりのユニーバーサルデザインについて」、「不適切指導について」、「ＩＣＴの効果的な活用について」などについても研修を行い、教職員の資質向上に向け取り組んできた。 ・今後も、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」について実践研修を重ね、発達段階に応じた系統立てた指導を行いたい。また、児童理解を深める研修も継続して行っていきたい。 ・学力テストの結果から課題を見きわめ、手だてを明確に支援し、家庭とも連携しながら課題解決に向け取り組んでいきたい。 ・学習習慣の確立のため、家庭と連携をとりながら、取り組んでいきたい。 ・教科書のみの学習にとどまらず、日々の取組、ふれあいの中に道徳的価値を見出す教員の姿勢が必要である。また、児童の行動を道徳的価値付し交流することで、児童同士が学びを深める機会をつくっていきたい。 ・今後もteamsや学習に使えるアプリ等の効果的な活用について研修を行っていきたい。定期的な研修により、全教員が指導できる体制を整えたい。	・児童一人一人の特性や発達段階を考慮した個別最適な指導を行って欲しい。 ・基礎学力（特に３年生まで）の向上とともにいろいろな体験をこれからも増やして、感性を磨けるような教育環境づくりに今後も励んで欲しい。 ・子どもの未発達な脳には、ディスプレイの負担が大きいと感じている。タブレット等のICTの活用について、適切な時間や使用方法について検討してほしい。 ・情報教育により、ICTの効果的な活用方法を学習し、身につけることが必要である。そのためには、繰り返し実践を重ねることと、情報モラルについても学習していくことが大切である。 ・道徳教育・人権教育は、昔からもそしてこれからも永遠のテーマとして必要不可欠なものである。その時代に応じた意識の変化、気づきが大切である。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B		
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B		
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	A		
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	・全校朝会での人の個性や個性のちがいを認める大切さについての講話や各学級での担任による発達段階に応じた内容の指導を行った。さらに人権意識を高めるために、道徳科を中心に、また、日々の児童への声かけ等の働きかけも大切にしながら取り組んでいる。 ・今後も、教職員が児童の言動に敏感になり、その都度指導していく姿勢を大切にしていきたい。	・いじめ防止のため、児童への継続した指導が必要である。また、不適切な指導等の防止のために、教職員の継続した研修も必要である。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・地域の方々の協力のもと、様々な体験活動を実践することができた。 ・青龍太鼓や田植えから収穫祭までのもち米作り体験、生きもの調査など地域の方々の多大な協力を得ながら、たくさんの体験学習を行うことができた。	・授業時数の関係で限られた時間内での練習だったように思うが、素晴らしい青龍太鼓の演奏を聞くことができた。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A	・学校田で地域の方の協力のもと田植え・稲刈りなどのもち米作り体験を行っている。収穫祭で収穫までの行程をまとめた発表や餅つき体験を行った。また、自分たちが育てた旬の野菜と町探検でお世話になった畜産関係の方からいただいた肉を使い調理実習も行った。東河地区の自然豊かな環境や、地域の人の温かさにふれる素晴らしい体験学習を行うことができた。	・児童が農産物を栽培し、自分たちで調理し食べる活動は、実体験が伴うのでとても良い取組である。 ・学校給食への地域食材の使用とそれを子どもたちに伝えることにより、生産者の顔をより一層見ることができるようになり食育がさらに進められると考える。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	・地域の方々の協力のもと、各学年の発達段階に応じた校外学習を設定し、地域の方々とふれあい、職業について学ぶことができた。学校の中だけでなく、地域と連携し、学習する機会を持てていた。 ・今後も効果的なキャリアノートの活用方法について研修を重ねていきたい。	・「ありのまま」で生きていくことは簡単ですが、なかなかできない。しかし、その姿勢には「潔さ」「生きる力強さ」を感じる。
その他	東河青龍太鼓を通してふるさと教育の醸成を図る。		A	・地域の方々の協力のもと、東河青龍太鼓や壱岐との交流など、東河独自の取組を行うことができた。	・５年生が主となって学習に取り組んでいる壱岐との交流であるが、今後も全学年を通して計画的に取り組んで欲しい。